

大学発新産業創出基金事業
ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム(D-Global) 2025 年度進捗評価結果

1. 開催目的

「大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム(D-Global)」の2024年度の採択課題に対する進捗評価会を開催し、課題の継続可否の判断を行う他、必要に応じて事業開発計画・研究開発計画・マイルストーン・研究開発期間・研究開発費、実施体制に関する見直しや課題推進に関する助言等を行い、採択課題や本プログラムの成果最大化を目指す。

2. 評価対象(代表事業化推進機関および研究代表者)

【2024 年度採択課題】

グラント ナンバー	代表事業化推進機関	研究代表者
JPMJSF2401	株式会社ビジョンインキュベイト	筑波大学 数理物質系 非常勤研究員 長崎 幸夫
JPMJSF2402	株式会社東京大学エッジキャピタル パートナーズ	物質・材料研究機構 高分子・バイオ材料研 究センター グループリーダー 岡本 章玄
JPMJSF2403	三菱UFJキャピタル株式会社	東京理科大学 理学部第一部 応用化学科 教授 椎名 勇
JPMJSF2404	Beyond Next Ventures 株式会社	京都大学 生存圏研究所 特定准教授 西村 裕志
JPMJSF2405	ANRI株式会社	神戸大学 大学院工学研究科 准教授 杉本 泰
JPMJSF2406	大鵬イノベーションズ合同会社	岡山大学 学術研究院 医歯薬学域 教授 阪口 政清

3. 開催時期

2025 年 10 月上旬

4. 評価者

D-Global 委員一覧(五十音順、敬称略)

・委員長(プログラムオフィサー)

長谷川 克也 東京大学 産学協創推進本部 スタートアップ推進部 シニアアドバイザー

・副委員長

金子 周一 金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科 特任教授

・委員

潮 尚之 ITPC 代表

内田 毅彦 サナメディ株式会社 代表取締役社長

宇治原 徹 名古屋大学 未来材料・システム研究所附属
未来エレクトロニクス集積センター 未来デバイス部 教授

尾崎 典明 エスファクトリー 代表

河口 信夫 名古屋大学 未来社会創造機構 教授

木嶋 豊 株式会社アイピーアライアンス 代表取締役

久保 浩三 奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構 特任教授・名誉教授

近藤 昭彦 株式会社バックス・バイオイノベーション 代表取締役社長

酒井 崇匡 東京大学 大学院工学系研究科 教授

櫻井 政考 TEAM アライアンス株式会社 代表取締役社長

田中 雅範 株式会社地域経済活性化支援機構 地域活性化支援本部
マネージング・ディレクター

橋本 千香 ガラス合同会社 代表社員

原田 謙治 株式会社メディカルインキュベータジャパン 執行役員

春山 貴広 GLOBIZZ Corporation President

東出 浩教 早稲田大学 経営管理研究科 教授

若宮 淳志 京都大学 化学研究所 教授

課題別進捗評価結果

グラントナンバー：JPMJSF2401

研究課題名： 低分子がん創薬 Magic Bullet の開発とグローバル展開

1. 代表事業化推進機関： 株式会社ビジョンインキュベイト
2. 研究代表者： 長崎 幸夫（筑波大学 非常勤研究員）
3. 研究概要：
抗体をしのぐ腫瘍集積性を有し、副作用が劇的に低減された抗がん剤「低分子 Magic Bullet」を開発し、がん患者を救い、がん治療における社会課題を解決するグローバルスタートアップの設立を目指す。
4. 進捗評価結果：
【総合評価】
プロジェクトの研究開発・事業開発の進捗は計画どおりに進んでおり、今後の計画も妥当であると認められます。

【評価の理由】
研究開発については、薬剤の動態、有効性等の基礎的検討について期待する結果が得られており、また非臨床向け原薬製造を完了して、予定どおりの進捗が認められます。事業開発については、米国市場調査などを積極的に進め、基本的な事業化戦略は立案されているものの、今後はその精緻化が必要です。

グラントナンバー：JPMJSF2402

研究課題名： 低張浸透圧バイオフィルム殺菌技術を用いた医療機器開発と国際展開

1. 代表事業化推進機関： 株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ

2. 研究代表者： 岡本 章玄（物質・材料研究機構 グループリーダー）

3. 研究概要：

新原理の低張浸透圧バイオフィルム殺菌技術を活用して、整形外科インプラント感染および創傷感染に対する治療機器を開発し、展開するグローバルスタートアップの設立を目指す。

4. 進捗評価結果：

【総合評価】

プロジェクトの研究開発・事業開発の進捗は概ね計画どおりに進んでいると認められますが、課題も見受けられます。今後の計画については、一部見直しが必要です。

【評価の理由】

研究開発は、小動物における観察試験で目標とする殺菌効果が得られているものの、それを説明する十分なデータが必要です。事業開発については、米国調査を行い事業化に向けた計画立案はある程度進んでいると認められますが、製品仕様、使用法、薬事戦略等については、更なる検討が必要です。

グラントナンバー：JPMJSF2403

研究課題名： 既存分子標的薬不応性のチロシンキナーゼ高発現がん、および小胞体ストレス脆弱性がんを治療対象とした新規ARF／GEF阻害経口低分子抗がん剤の開発

1. 代表事業化推進機関： 三菱UFJキャピタル株式会社

2. 研究代表者： 椎名 勇（東京理科大学 教授）

3. 研究概要：

従来の分子標的抗がん剤では治療が困難ながんの一種である「チロシンキナーゼ高発現TKI不応がん」「小胞体ストレス脆弱性がん」を対象として、ARF／GEF阻害の新しいメカニズムによる経口低分子抗がん剤の開発を進め、その製造手段を中核技術とするスタートアップの設立を目指す。

4. 進捗評価結果：

【総合評価】

プロジェクトの研究開発・事業開発の進捗は計画どおりに進んでおり、今後の計画も妥当であり、大きな成果が期待できます。

【評価の理由】

開発候補化合物の薬効試験、安全性試験、合成法検討、メカニズム解析、バックアップ化合物の選定および知財戦略等について計画どおり順調に進捗しています。また、今後の研究開発および事業開発の見通しに大きな懸念はなく、着実な成果が期待できると判断いたしました。

グラントナンバー：JPMJSF2404

研究課題名： 革新的分離技術によるホワイトリグニン創出と高付加価値バイオマス製品の開発

1. 代表事業化推進機関： Beyond Next Ventures株式会社

2. 研究代表者： 西村 裕志（京都大学 特定准教授）

3. 研究概要：

革新的な植物バイオマスの分離技術を活用して、高純度ホワイトリグニンを創製し、高付加価値新素材として用途展開をすることで、バイオマスを基幹とした循環型社会を実現するスタートアップの設立を目指す。

4. 進捗評価結果：

【総合評価】

具体的な事業ターゲットの選定が明確になっておらず、これまでの事業開発・研究開発の進捗状況では、起業及び事業化が現在の計画から遅れる可能性があります。早期にターゲット市場の絞込とその内容を反映した事業計画および研究計画に見直す必要があります。

【評価の理由】

顧客ヒアリングの結果、新たな用途素材としての可能性を確認できていますが、顧客の求める製品としての具体的スペック把握が十分ではなく、現時点では事業開発と研究開発は模索段階となっています。本プロジェクトの事業期間は残り1年であり、優先度の高い顧客の具体的要望やペインを十分検証した事業計画と研究計画へ至急見直す必要があります。

グラントナンバー：JPMJSF2405

研究課題名： ナノ粒子を用いた新規構造色インク・塗料の開発及び事業化推進

1. 代表事業化推進機関： ANRI株式会社

2. 研究代表者： 杉本 泰（神戸大学 准教授）

3. 研究概要：

構造発色ナノ粒子の技術を活用して、「軽い・薄い・強い」を実現する革新的な構造色インク・塗料を開発し、量産技術の確立と事業開発を進めることで、グローバルで戦えるマテリアルスタートアップの設立を目指す。

4. 進捗評価結果：

【総合評価】

プロジェクトの研究開発・事業開発の進捗は計画どおりに進んでおり、今後の計画も妥当であると認められます。

【評価の理由】

事業開発と研究開発において、ニーズヒアリングや合成スケールアップなど、概ね計画どおりに進捗しており、ヒアリングやサンプルワーク状況などから今後の計画も妥当であると考えられます。

グラントナンバー：JPMJSF2406

研究課題名： 特発性肺線維症治療薬の国際展開に向けた研究開発

1. 代表事業化推進機関： 大鵬イノベーションズ合同会社
2. 研究代表者： 阪口 政清（岡山大学 教授）
3. 研究概要：
有効な治療法がない特発性肺線維症や炎症性疾患などの難治性疾患に対して、新たな作用メカニズムに基づく独創的かつファースト・イン・クラスの抗体医薬を創製・開発するスタートアップの設立を目指す。
4. 進捗評価結果：
【総合評価】
プロジェクトの研究開発・事業開発の進捗は計画通りに進んでおり、今後の計画も妥当であり、大きな成果が期待できます。

【評価の理由】
事業化推進機関と大学が密な協力体制をとり、事業化に向け着実にプロジェクトを推進しています。

以 上